

2013年3月11日
フットサル委員会

全日本少年フットサル大会用ボールの大きさ、ピッチサイズ等について

1. ボール

過去、全日本少年フットサル大会において軽量4号球が使用されたことがあったが、現在、重さ、サイズ共に一般用のフットサル4号球が使用されている。一方、全日本少年サッカー大会では、U-12年代の選手が十分に成長していないことも考慮し、一般の5号より1号小さく軽い、サッカー4号球が使用されている。

U-12の選手が一般用フットサル4号球と軽量、小サイズの3号球を用いた場合の差異を検証したところ、次のことが判明した。

- ・ キックの飛距離： 3号球では、キックの飛距離が伸び、4号球の重さによる影響を解消できる。
- ・ キックの精度： 正確なインパクトを与えやすいので、3号球の方がキックの精度が高まる。
- ・ ボールの扱い易さ： 4号、3号にかかわらず、フットサル用のローバウンドのボールであることから、差異は認められない。
- ・ パスの精度： 4号球の方が大きいため、パスの受け手がボールに触れ易く、パスの精度はややあがる。

これらから、4号球による重さによる影響を回避しつつ、U-12年代選手のボールタッチの正確さの向上も図ることも念頭に入れ、体が十分に成長していないU-12年代の選手がプレーする全日本少年フットサル大会においても、軽量、小サイズのフットサル3号球を使用する。

- * フットサル3号の検定球のサイズ等については、2012年11月（公財）日本サッカー協会理事会において承認されている。
- * ブラジル、スペイン等のフットサルでも、U-12年代では軽量、小サイズのボールが多く用いられている。

2. ピッチの大きさ等

- (1) 全日本少年フットサル大会のピッチサイズについては、これまで32m×18mと固定していた。このため決勝大会のサイズを踏襲する都道府県予選において、十分な数の会場確保が難しく、出場チーム数の制限をせざるを得ない状況がある。

この現状を解消するため、タッチラインについて30~40m、ゴールラインについて15~20mのサイズのピッチを使用することを可能とし、決勝大会のみならず、様々なピッチサイズの既存人工芝フットサル施設であっても予選大会が開催できるようにし、より多くのチーム、選手の参加を可能とする。

- (2) 全日本少年フットサル大会では、U12年代フットサル選手プレーの技術向上を考慮して、ゴールキーパーのボールスローの制限（注）、ペナルティーエリアの大きさを小さく描く（一般6m⇒U125m）等の対応をしている。キックイン時やフリーキックのときに相手競技者が離れる距離等についてもこれらと整合性をとり、別表のとおり、短めに設定する（一般5m⇒U124m）。

（注）ゴールキーパーは、ハーフウェーラインを越えてボールを投げることができない。

別表

全日本少年フットサル大会のピッチ、ボール等のサイズ、距離

		2012年度まで	2013年度から	一般(標準)	一般に対し
		(a)	(b)	(c)	(d)=(b)/(c)
ピッチサイズ	タッチライン	32m	30-40m	40m	75-100%
	ゴールライン	18m	15-20m	20m	75-100%
センターサークル	(半径)	2m	2.5m	3m	83%
ペナルティーエリア	(ゴールポストの外側から)	5m	(原則) 5m	6m	83%
ペナルティーマーク	(ゴールラインから)	5m	5m	6m	83%
第2ペナルティーマーク	(ゴールラインから)	10m	8m	10m	80%
交代ゾーン	(ハーフウェーラインから)	5m	4m	5m	80%
	(幅)	5m	4m	5m	80%
ゴール	(幅x高さ)	3m x 2m	3m x 2m	3m x 2m	100%
守備側競技者の ボール等から離れる 距離(最小)	(フリーキック)	5m	4m	5m	80%
	(コーナーキック)	5m	4m	5m	80%
	(キックイン)	5m	4m	5m	80%
ボール	(号数)	フットサル4号	フットサル3号	フットサル4号	
	(外周)	62-64cm	58-60cm	62-64cm	93-94%
	(重さ)	400-440g	350-390g	400-440g	88-89%

- 都道府県の予選大会において既存のフットサルピッチ等を用いる場合、ペナルティーエリアは6mであっても、ペナルティーキック、第2ペナルティーマークからのキックは、それぞれゴールラインから4m、8mとする(マーキングの必要はない:主審・第2審判員が決定する)。

